

海外安全対策情報（令和3年10月～12月）

1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

- （1）11月8日、スファックス県アガレブにおいて、廃棄物処分場の再開を巡って、抗議活動が発生、治安部隊と衝突した。
- （2）11月14日、チュニス市において、大統領の政策に反対する政党や団体等による抗議活動が行われた。
- （3）12月9日、エンナハダ党本部で男が焼身自殺し、火災により複数人が負傷した。
- （4）12月17日～19日夜間、カスリン県エヌール市において、若者らによる騒擾が発生。
- （5）2021年中、チュニジア全土において、2015年以降最多となる1200を超える抗議活動が発生した。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

邦人が被害に遭遇した凶悪犯罪事件は認知していません。

3 テロ・爆弾事件発生状況

- （1）10月29日発表、タタウィン県において、ISと関係を有する10名から成るテロ細胞が摘発された。
- （2）11月19日発表、ジャンドゥーバ県において、20名から成るテロ細胞が摘発された。
- （3）11月26日、チュニス市の内務省付近で、男が刃物で警官に対する襲撃を企図した事件が発生。男は警官に撃たれその場で拘束された。
- （4）12月5日、カスリン県セママ山付近において、地雷が爆発、女性住民が負傷した。
- （5）12月15日、カスリン県において、テロリスト3名が拘束された。
- （6）12月31日、カスリン県サイフ山において、ジュンド・アル・ヒラーファに属するテロリスト1名を拘束した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

6 日本企業の安全に関する諸問題

当国で日本企業を標的とした事例はありませんが、2019年6月27日チュニス市中心部で、2020年3月6日には米国大使館前で、同年9月6日にはスースのリゾート地付近で、それぞれ死傷者を伴うテロ事件が発生しています。また、隣国リビアでも不安定な情勢が続いている上、ISが、新型コロナウイルス感染拡大につけ込み欧米諸国に対し攻撃を仕掛けるよう呼びかけています。こうした状況に鑑みれば、今後も外国人・外国権益を標的としたテロ・誘拐事件が発生する可能性は否定できませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要です。

外務省ホームページで「スポット情報」、「危険情報」を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いいたします。